

1 「横須賀市 THE Base APARTMENTS 第2次募集の入居者が決定しました」

市長

このたび、西逸見町の THE Base APARTMENTS にお住まいをいただく方が決まりました。

「宇宙戦艦ヤマトシリーズ」、「超時空要塞マクロス」、「ガンダム SEED」など数多くの素晴らしい作品の生みの親ともいえるべき方です。

まずは、お手元の資料をご覧ください。

THE Base APARTMENTS は、使用されなくなっていた、上下水道局所有の旧待機用の宿舎をクリエイターやeスポーツチームなどの住居兼仕事場として利用できる Base として整備したものです。

建物は2棟6戸で、このうち1棟3戸はすでに3月に e スポーツチーム BCSWELL の皆様が入居されており、素晴らしい活躍をされていますが、今回、第2次の入居者の募集を行いました。

そしてこのたび、冒頭で申し上げたとおり、日本が世界に誇る大変有名なコンセプトアルデザイナーである宮武一貴さんに入居いただくことが決まりました。

大変ご多忙の中、本日、この発表の場にお越しいただきましてありがとうございます。

宮武さんには、これから THE Base APARTMENTS を拠点として、デザイナーとしての活動を行っていただきながら、本市のPRや地元の自治会の活動への参加、さらには、ご自身の経歴を生かした地域住民や学校等を含む、市民を対象とした交流の活動を行っていただきたいと考えています。

私からは以上です。

司会

ありがとうございました。ここで宮武様のご紹介をさせていただきます。

宮武様は、本市のご出身、在住で、数多くのアニメーション作品のデザインにコンセプトアルデザイナーとして携わってこられました。

コンセプトアルデザイナーとは、単なるデザインにとどまらず、作品の世界観などもデザインする、作品づくりにおいて非常に大切なポジションを担う方です。

ここで皆様に映像をご覧ください。

<映像上映中>

ご覧いただいているアニメーションは、「超時空要塞マクロス」という作品で、絶大な人気を博した作品です。当時、私も含め、たくさんのお子どもたちが毎週楽しみに、胸を熱くして見ていました。ご覧の通り、この映像にもメカニックデザイナーとして宮武様のお名前が大きく記載されております。

宮武様は、この「超時空要塞マクロス」以外にも、「宇宙戦艦ヤマトシリーズ」、「機動戦士ガンダム SEED」、「聖戦士ダンバイン」、さらには「交響詩篇エウレカセブン」など、現在に至るまでの長きに渡り、アニメーションの歴史に燦然と輝く多数の作品に携わられています。

本日、会場に飾らせていただいた作品もその一部にすぎませんが、すべて宮武様がデザインされたものです。お手元にお配りした活動略歴とあわせてご覧いただければと思います。

それではここで宮武様に、一言ご挨拶をいただきます。よろしく願いいたします。

コンセプチュアルデザイナー 宮武 氏

50年以上この仕事をやっております宮武一貴です。

このたび、「THE Base APARTMENTS」に入所できることとなり、大変感謝しております。横須賀に生まれ育ち、海と山と風と花など自然が大好きで、市内を歩き回っていた男です。

この先も横須賀市の魅力を伝えていき、そして私のような道を歩む可能性のある人たちを手助けしていきたいと思っております。

今後ともよろしく願いいたします。

<質疑応答>

記者

これから同じような道を歩む人たちへの手助けをしたいということですが、今後、THE Base APARTMENTS でイベント等を開催するなどの計画はありますか。

コンセプチュアルデザイナー 宮武 氏

はい。私も独学でこの世界をつくり上げてきたため、いろいろなノウハウを持っています。それを少しでも伝えていけたらと思っています。

記者

今回、入居することになったきっかけを教えてください。

コンセプチュアルデザイナー 宮武 氏

昨年、住んでいた自宅が火災に遭い、家と妻を失ってしまいました。そのようなこともあり、市役所を訪問する機会があったのですが、

以前、記念艦「三笠」の上で個展を開かせていただいた際、観光課にお世話になったので、挨拶に伺った際、「THE Base APARTMENTS」についてご案内をいただきました。

記者

火災に遭ったのは東京の自宅ですか。

コンセプチュアルデザイナー 宮武 氏

横須賀です。

記者

「THE Base APARTMENTS」には、おひとりで住むのですか。

コンセプチュアルデザイナー 宮武 氏

はい。ただ、とても広い立派な住宅なので、こちらで手伝ってくれる人、もしくは勉強したいという方にも、極力、道を開いて行けたらなと思います。

先程、マクロスという作品で、私の名前とその下に「河森正治」という名前が表示されていたと思います。彼は「宇宙戦艦ヤマト」を手掛けている時に、私のスタジオにやってきたのですが、何年もスタジオに通い、そのままプロになりました。そのようなこともあり、人を育てることはできないことではないと思っています。

記者

仕事の傍ら、後進の育成も行うということですか。

コンセプチュアルデザイナー 宮武 氏

はい。

市長

先程、宮武さんとお話をしたのですが、『2001年宇宙の旅』という映画を観て、感動して人生が変わったそうです。

クリエイターが何かの啓示を得て突き詰めていくという、おそらくそれがきっかけとなり、いま、この世界の第一人者であり、誰にもできなかったことを踏み分け、道を自分で作り上げてきたということで大変尊敬させていただいています。ぜひ、横須賀から後進の育成も含めて、クリエイターとして新たな発信をしていただきたいと私は願っています。

コンセプチュアルデザイナー 宮武 氏

ありがとうございます。

記者

最近はどのようなデザインをしているのですか。

コンセプチュアルデザイナー 宮武 氏

申し訳ないのですが、タイトルなどをお話しすることはできません。

去年は、「スーパーロボット大戦 30」という作品のメインとなる旗艦の船や、登場するロボットのデザインをさせていただきました。

記者

戦後直後の生まれということで、当時の横須賀の印象と現在の印象の違いを教えてください。

また、横須賀で生まれ育ったということですが、「宇宙戦艦ヤマト」など戦艦物のデザインに携わる際、基地が近くにあるということで影響されることもあるのでしょうか

コンセプチュアルデザイナー 宮武 氏

はい、ここで生まれていなければできなかったと思っています。

学校が近かったこともあり、物心がついた時から、記念艦「三笠」で遊んでいました。

また、小学校から中学にかけてはボーイスカウトをしており、米軍からパーティーに招待されることもありました。このように、子どもの頃から身近に軍艦を感じることでできる環境にあり、マクロスでは、持てる知識のすべてを使い、士官用の食堂の食器のデザインを担当することになりました。

記者

コンセプチュアルデザイナーという仕事について、もう少し具体的に教えてください。

コンセプチュアルデザイナー 宮武 氏

監督の言葉の胸中や気持ちから象徴的なものを掘り出し、新しいものを表現することがコンセプチュアルデザイナーという仕事です。

<フォトセッション>

2 「市内公共施設へ太陽光発電設備を導入します～ゼロカーボンシティ実現に向けた取り組みの推進～」

市長

「市内公共施設への太陽光発電設備導入」についてです。

「2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指す」。これは、令和3年1月に表明した「横須賀市ゼロカーボンシティ宣言」の内容ですが、まずは、その実現の第1歩として、市役所が、多くの電気を使う1つの事業所であることから、二酸化炭素排出量削減に積極的に取り組んでまいりたいと思います。

具体的には、公共施設に太陽光発電設備を導入し、再生可能エネルギー由来の電気を自家消費することで、二酸化炭素排出量削減に寄与する取り組みを進めます。

このたび、令和4年度に事業を実施する事業者を公募型のプロポーザルにより選定をいたしました。

今後も、再生可能エネルギーの自家消費を図るため、順次、公共施設の太陽光パネルの設置を進めてまいります。

資料の2ページは、事業の内容になります。

「1.対象施設」ですが、避難所に指定されている学校および行政センターの中から、9施設の設備の導入を予定しています。

「2.設置事業者」ですが、事業者の企画提案内容を審査する公募型プロポーザル方式によって、市内事業者の株式会社サンエーを選定いたしました。

「3.予定事業費」ですが、17年間のリースで約1億9,000万円。1年当たりに換算すると約1,100万円となります。

「4.パネル設置による効果」ですが、現状の見込みは9施設合計で年間約56万kWhの発電を見込んでおり、対象施設の令和3年度の電気使用料の約36パーセントを賄うことができます。なお、この設備設置に伴う二酸化炭素排出削減量は年間約250トンを見込んでいます。

また、設置施設での自家消費に加え停電を伴う非常時には防災用の電源として活用するなど、地域の防災力を高めることを期待しています。

今後、各施設の詳細な現地調査を行い、年内に工事を完了する予定です。

最後になりますが、当事業を皮切りに、「ゼロカーボンシティ」の実現に向け、二酸化炭素排出量の削減に寄与する取り組みをより一層、推進していきたいと思っております。以上です。

<質疑応答>

記者

この9施設を選ばれた理由を教えてください。

環境部長

屋上の防水工事が終了しており、さらに避難所にも指定されているこちらの9施設を優先的に設定させていただいております。

記者

この年間の発電量は9施設で56万kWhで、使用量の36パーセントに当たるということですが、例えば、家庭に置き換えると何戸分の電力でしょうか。

環境部長

申し訳ありませんが、一般家庭に置き換えた場合につきましては、後ほどご報告させていただきます。

記者

12月に9施設すべてに設置が完了ということですが、10月から着工し、設置が完了した施設については、完成次第、順次稼働するのでしょうか。

環境部長

完了後、稼働させたいと思っています。

記者

今後さらに設置する施設を増やすということですが、例えば、市内の全小中学校に設置していくなどの計画はありますか。

環境部長

はい。2040年までに自家消費が可能、かつ構造上設置可能なすべての公共施設への導入を目指しているところです。そのため、今年度以降、同規模程度のペースで事業を推進させていただければと考えているところでございます。

市長

水道局の施設も含めて考えていきたいと思っています。

記者

設置可能な公共施設の全体数設と、設置可能な全施設へ設置する場合にかかる費用を教えてください。

環境部長

施設の数ですが、現在、約540施設がございまして。その中で、構造上設置可能なのかということは、これから調査していきます。金額については、後程、回答させていただきます。

市長

2040年とは言わず、できる限り早い時期に私はやりたいと思っています。

国の補助もありますので、できるだけ安価で、市の負担がないような形で全施設に設置していきたいと思っています。

3 「懸垂幕を活用した新たな情報発信」

市長

ご覧になった方もいらっしゃると思いますが、市役所本庁舎の正面玄関の壁面には懸垂幕を掲げるスペースがありますが、この活用方法を一部変更します。

これまでの懸垂幕は、資料2ページにあるとおり、文字による啓発的な内容を中心とした単体のものを掲げて、情報発信をしていましたが、これに加えて、複数の懸垂幕を1つのイラストや写真にして市の魅力、施策が目指している姿を発信していきます。

資料3ページをご覧ください。こちらが、昨日、7月11日から新たな取り組みの第1弾として掲出している市の基本構想・基本計画「YOKOSUKA VISION 2030」のイメージイラストです。

資料の4ページから6ページに今後の活用イメージを掲載しておりますのでご参照いただければと思います。

今後も、行政機関として、一部、従来通りの掲出をするものもありますが、「ゼロカーボンの推進」や「猿島・センスアイランド」などの掲出を企画しています。

繰り返しになりますが、市の魅力や施策が目指している姿を発信することは、非常に重要なことであると考えており、この懸垂幕についても大いに活用していきたいと思います。以上です。

<質疑応答>

記者

新しい懸垂幕ですが、1月に何回掲出するなどの目標はありますか。

経営企画部長

目標は設定していませんが、発信するものがあれば、その都度、即時に対応したいと思います。

記者

従来の懸垂幕と比べ、コストは高くなっているのでしょうか。

広報課長

従来と変わりません。

市長

以前から変えるべきだと思っていました。警察・自衛隊関係や献血などの場合は、従来通りの掲出方法でやるべきだと考えていますが、それ以外はイメージとして横須賀の発信をしていきたいと思っています。

記者

従来の掲出方法では、見られていないなどの反省があり、3枚1組とする掲出に変更するということでしょうか。

市長

おっしゃるとおりです。文字ばかりの懸垂幕が3点に分かれて掲出されていましたが、どれほどの掲出効果があるのかと、いつも疑問に思っていました。

従前、例えば、「交通安全週間」などの掲出をしていましたが、このように決まっているものは、その他の広報媒体でお伝えし、「横須賀をこういう街にしたい」などというイメージを掲出した方が良いのではないかと考え、掲出方法を変更することとしました。

「案件以外の質疑」

記者

米軍横須賀基地でのPFOSで問題になったようですが、その後、横須賀市の方へ新しい情報や米軍側からの説明はありましたか。

市長

国からの説明等はありません。

ただ、先日7日、ラティ在日米海軍司令官と会う機会があり、私からは、基準値以上のPFOS等が横須賀港に流出したことについては残念である旨を伝えるとともに、今回の原因究明と必要な情報の提供について申し入れをいたしました。

また、昨日、本件に関して、ラティ司令官とオンラインでお話させていただきました。

ラティ司令官からは、今回の件は、泡を発見して、すぐにサンプリングを実施し、結果判明後、すぐに在日米軍を通じて、日本政府に情報を提供した。

現在、米海軍として全力を挙げて原因究明をしており、再サンプリングの実施や艦船に対しても調査・確認、排出処理施設内の他のエリアの調査を実施しているとのことでした。結果が出たら環境、健康に関する影響も含め、速やかに、日本政府、横須賀市に報告するとのことでした。

そして、米海軍横須賀基地では保有しているPFOS等を含む製品に関しては厳重に管理しており、これまで保管、流出等に関する問題は全くないということや、代替品への交換を進めているという説明がありました。

私からは、早期の原因究明と周辺環境への影響の有無の確認について申し入れるとともに、引き続き、保有しているPFOS等の適切な管理、代替品の交換の加速及び全ての交換が完了した際の情報提供を要請したところです。

記者

いまの話に関連して、流出そのものに対して、市長はどのように考えていますか。

市長

米海軍もこの市内で暮らしているわけで、しっかりと管理しなければいけないということは理解していると思っています。そういった意味でも、このような事態になったということは非常に残念です。

ただ、もう1度サンプリングを実施し、どのような状態になるかということと、それから原因は何であるのかということが、究明すればいいと思っています。

沖縄と問題が違うということは理解していますが、市民の安心と安全を保障しなければいけないという私としてみれば、非常に残念であると米軍に申しましたし、私自身、今もそのように感じています。

記者

環境への影響という話もありましたが、海に流出している可能性が高いということで、漁業や観光などへの影響についてはどのように考えていますか。

市長

漁業関係者の不安はあると思います。とにかく徹底した原因究明、原因に対し、どのように再発防止していくかということはいまは待ちたいと思っています。

記者

安倍元首相がお亡くなりになり、横須賀市では記帳所を設けたというリリースがありましたが、どのような経緯で設けることになったのでしょうか。また、記帳所を設置するために何か基準があれば教え

てください。最後に、三浦市では半旗を掲げているというリリースがあったのですが、横須賀市では、半旗について議論はなかったのでしょうか。

市長

元首相で、日本のためにあれほど活躍されていて、様々な功績を残した人が、現職でありながら選挙中、凶弾に倒れたということに関しては、当然、一自治体の長としては、半旗を掲げ、そして記帳所を設けるのが、当然のことであると私は思っていますし、どなたからも異論はないです。

記者

横須賀では、半旗はやっていないですね。

市長

やっています。

記者

国から通知があったのでしょうか。

市長

ありません。

記者

元首相なので記帳所を設置したのでしょうか。例えば、元首相でない、現職の国会議員が襲撃された場合は設置するのでしょうか。

市長

今回、選挙中に凶弾に倒れたという現状を鑑みて、設置しました。その方が、元首相でなければならぬ、現職でなければいけないというルールはありません。

ただ、一国の元首相が、凶弾に倒れたということに関して、半旗を掲げ、記帳所を設けることは、当然だと私は思っています。

記者

自治体として、それを掲げるのであれば、何らかの基準があるべきだと私は思っています。基準もなく、曖昧な状況の中でやることは、不適切ではないかなと思うのですが、市民からは、特に意見はありませんか。

市長

何もありません。

令和2年2月2日に中東の情報艦の派遣の際、安倍首相と河野大臣がいらっしやって送ったことをいまでも覚えています。この蛮行によって、おそらく、志半ばで、亡くなられたということを考えると、言葉がありません。二言、三言、言葉を交わしただけですが、安倍さんの胸中を考えると、本当に辛いですし、許せないものがあります。最後に、繰り返し申しますが、半旗を掲げる、記帳所を設置するというのは私の考えです。以上です。